

三宮十五郎 議員



弥富の福祉は後退させないを 市政運営の基本に

問

子育て支援が果たした役割について聞く。

支援策が後退しないよう努力していく

答 市長

社会保障はしつかり手当していく。25年度予算において、一般会計で民生費全体で約40%占めている。

また特別会計では、国民健康保険事業は、42億5千万円かかる状況である。

中学3年生までの医療費の無料化は来年度も継続する。保育料は県下の中でも最も低い水準である。17年間保育料を改正せずに据え置いており、これも25年度は実施をしていく。

さらに、保育サービスの

向上においては、弥生保育所が3カ月の子どもから、6カ月からお預かりする保育サービスを拡大していく。

一方、防災・減災的な政策的経費、投資的な経費での建設事業、あるいは土木事業があるが、土木費については、対前年度よりマイナス2億円である。前年比が83%という状況で25年度の予算を編成している。

市民の負託のある土木経費について減らしているという状況を認識してもらいたいと思っている。

中期財政計画で示した普通交付税は28年度から年々減り、33年度にはなくなる。

今後は、行政経営をしていく中、社会保障だけを見

ながらまちづくりをするわけにはいかない。財政の健全化を図っていくため、税収の減収に対し、一つの考えとして、都市計画税を検討していかねければならないと考えている。県内38市の中で未導入は3市のみで、これから委員会等で検討していきたい。

身の丈に合った計画に再検討してはどうか

問

下水道事業や庁舎建設などを身の丈に合った計画に再検討してはどうか。

次の時代に負担を残すことのないようにする

答 市長

下水道事業については、(住民)アンケート結果として、一番市民の皆さんが要望しているのは、次の時代の環境(整備)をやってほしいということであった。

また、公共下水道事業

は、条例で定めた以上は、地域全体で公平に共有されるべきであるという観点から、この事業を進めていきたい。

庁舎建設については、現在の庁舎は老朽化が進み、築46年経過しているため、しつかりと計画を立て整備していく。

資金計画についても、過度な投資はせず、次の時代に大きな負担を残すことのないようにやっていきたいと考えている。



▶下水道工事(平島地内)